

教育支援センター「ほっと東海」の状況について

1 令和6年度 入級者数（令和7年3月末時点）

教 室	小学生	中 1	中 2	中 3	計
横須賀教室 武田 基二（教育相談員） 大野 明子（教科指導員） 八木 真実（スクールサポーター）	3年・・・3 4年・・・2 5年・・・2 6年・・・5	8	1 3	1 5	4 8
上野公民館教室 深谷 公子（教育相談員） 森田眞紀子（教科指導員） 坂井 修（スクールサポーター）	3年・・・1 4年・・・1 5年・・・2 6年・・・2	5	8	2	2 1
平洲中学校教室 田島 一朗（教育相談員） 早川由香里（教科指導員） 鈴木 陽美（スクールサポーター）	4年・・・1 5年・・・1 6年・・・2	3	5	0	1 2

※横須賀教室 早川 悦子（教育相談員） 令和7年度より勤務

2 「ほっと東海」の日課

(1) 横須賀教室（火～土）

9:10～ 9:45 登校・準備（読書など）
9:50～ 9:55 朝の会（体操・連絡）
10:00～10:40 学習①
10:50～11:30 学習②
11:30～12:00 コミュニケーションタイム
12:00～13:00 昼食・休憩
13:00～13:40 学習③
13:50～14:30 学習④
14:30～14:55 コミュニケーションタイム
14:55～ 清掃・帰りの会
15:00 下校

(2) 上野公民館教室（火～土）

9:10～ 9:45 登校・準備（読書など）
9:50～ 9:55 朝の会（ストレッチ・連絡）
10:00～10:40 学習①
10:50～11:30 学習②
11:30～12:00 コミュニケーションタイム
12:00～13:00 昼食・休憩
13:00～13:40 学習③
13:50～14:30 学習④
14:30～14:50 コミュニケーションタイム
14:55～ 清掃・帰りの会
15:00 下校

(3) 平洲中学校教室（月～金）

9:10～ 9:45 登校・準備（読書など）
9:45～ 朝の会（連絡）
9:50～10:40 学習①
10:50～11:40 学習②
11:50～12:20 コミュニケーションタイム
12:20～12:40 昼食・休憩
12:40～13:10 スポーツタイム
13:10～13:35 休憩
13:35～14:25 学習③
14:25～14:50 コミュニケーションタイム
14:55～ 清掃・帰りの会
15:00 下校

3 学習について

- 個別指導を基本とする。基礎学習をしながら、在学年の学習内容にせまる。
- 教科書・問題集・資料集などは、個人のものを使用することを基本とする。

4 主な行事

(1) ねらい

- 諸活動への意欲を高め、自ら進んで活動を楽しむ気持ちを高める。
- 3教室の交流を図り、人と関わることの意義に気付かせ、集団の一員としての自覚を高める。又、社会見学や自然との触れ合いを通して、豊かな心を育む。

(2) 校外学習

- 第1回 令和7年 7月 2日(水) でんきの科学館・NHK スタジオパーク
- 第2回 令和7年11月20日(木) 碧南海浜水族館・JERA park

(3) 青空教室

- 実施日 令和7年9月13日(土)～9月15日(月・祝)
- 実施場所 国立若狭湾青少年自然の家(福井県小浜市)

(4) 交流活動

- ・会食会(7月)・クリスマス会(12月)・卒業生を祝う会(2月)
- ・スポーツ大会(毎月第1木曜日)・出会いの教室(6月)・福祉実践教室(11月)・みかん狩り(11月頃)

(5) その他

- 各教室における文化活動(ALT年10回・絵画・習字・「安全安心な生活」講座・作業活動等)
- 東海市校長会進路研究部会主催の「子どもの自立と未来を語る会」への参加
- 保護者懇談会(学期に1回)
- 教育相談員の学校訪問(市内小中学校へ教育相談員が出かけ、不登校児童生徒についての情報交換)
- 他市町の教育支援センターの見学、交流
- 星城大学との連携活動(キャンパス見学・作業療法体験など)

(6) 行事についての課題

- 3教室合同で行事を行っているが、参加者の固定化が進んでいる。
- 行事の時は、原則「ほっと東海」を閉めていたが、行事に参加できない通級生のために可能な限り「ほっと東海」を開けるようにしていきたい。

5 各教室の状況及び事例

(1) 3教室共通

- 学習環境に配慮し、発達段階、学力に応じた学習支援を行っている。個別の支援をすることで落ち着いて学習に取り組んでいる。
- 自分の考えや思いを人に伝えることが苦手な通級生が多いので他の通級生と関わりをもつことが難しいが、コミュニケーションタイムの卓球やカード遊びなどを通し、コミュニケーションの力が少しずつ養われてきている。
- 学校との連携を密にし、児童生徒の状況に応じて学校行事や得意な授業への

参加などを促すなどの登校支援をしている。

- 中学校3年生に対しては、進路を見据えた学習指導を行っている。また、面接や作文指導等も行っている。
- 学校と連携して支援するために、児童・生徒の出欠状況と様子を毎週末報告している。
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、面談や自立に向けた支援をしている。

(2) 横須賀教室

- 入級者、見学者数は昨年度の同じ時期とあまり変わらない。
- 1～2時間学習をして帰宅する通級生が多い。しかし、本人や保護者との相談や声かけによって少しずつではあるが、在室時間が延びたり通級回数が増えたりしてきた生徒もいる。
- 通級生の約半数が学校の特定の授業に参加をしたり、あいさつ登校や他の児童生徒が帰宅した時間に登校したりしている。
- 定期テストを学校で受ける生徒と「ほっと東海」で受ける生徒がいる。

(3) 上野公民館教室

- 継続入級の児童生徒が多く、在室時間は長い。新規入級の生徒もその様子を見ているため、比較的早い段階で長時間の在室ができるようになっている。
- 定期テストは各学校で受けることができる生徒が多く、テスト前には自分で学校に試験範囲を確認し、集中してテスト勉強に取り組んでいる。
- 校外学習や会食会など、「ほっと東海」の行事に意欲的に参加できる児童生徒が多い。

(4) 平洲中学校教室

- 昨年度に引き続き、平洲中学校区以外の児童生徒の入級はない。
- 入級している生徒が同じ平洲中学校であるため、生徒同士のつながりが強く、お互いを思いやることができている。
- 平洲中学校が主催している「平洲ランチ」に参加する生徒が多い。
- 学校の行事や授業に少しずつ参加する生徒が増え、定期テストも学校で受けることができている。
- 「ほっと東海」平洲中学校教室が校内にあるため、学校の授業を受けたり、「ほっと東海」で過ごしたり行き来する生徒が数名いる。

6 不登校に対する手立て

- (1) 「ほっと東海」での児童生徒の様子を積極的に学校に伝えていくとともに、学校（担任）が定期的に「ほっと東海」への訪問や学校外での面談等を依頼していく。学校では見せない姿から児童生徒の理解を深めてもらい、よりよい支援について、共に考えていく。
- (2) 「ほっと東海」に通級する児童生徒の悩みや思いを聴く時間を取り、信頼関係を築くことで、人との関わり大切さを感じさせていく。さらに、気持ちにエネルギーが蓄えられてきたと思われる児童生徒には、学校や集団で学ぶ楽しさや意義を伝えていく。
- (3) 「ほっと東海」に通級する児童生徒だけでなく、その保護者にも寄り添い、関係づくりに努めていく。
- (4) 学校と連携するために、学校で行われている「不登校支援委員会」などに、その児童生徒が関わっている関係機関とともに、「ほっと東海」の教育相談

員も参加し、より具体的な支援ができるようにしていく。

- (5) 学校と教育支援センターが連携を強めていくために、今年度、新たに1名の教育相談員を配置した。学校と教育支援センターの連携の在り方について、学校のニーズを把握し、よりよい連携方法を検討していく。